

特別養護老人ホーム 偕生園

1 施設を取り巻く現状と課題

団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年における浜田圏域の総人口は 69,557 人と、現人口が 72,061 人であることと比較すると 2,504 人減少する見込みであるが、65 歳以上の高齢者は 448 人の減少にとどまり、高齢化率は 38.6%から 39.4%に上がることが見込まれている。

浜田地区広域行政組合第 8 期介護保険事業計画では、令和 7 年度の地域のあり方、地域包括ケアシステムのあるべき姿を念頭におきながら各施策を見直し、圏域内のすべての高齢者やその家族が、住み慣れた地域の中で有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことができ、安心して、生き生きと生活する社会を目指し、計画の方向性を①いつまでも地域で暮らせる地域包括ケアシステムの構築、②地域共生社会の実現、③高齢者の活動による地域づくりの推進、④制度の持続可能性を高めるための改革の推進の 4 本柱とし、介護保険サービスについては、特養入所者の待機状況からみて、施設整備の必要性は低いことから、看護小規模多機能型居宅介護（1 事業所）、介護医療院（41 床）を整備目標とし、令和 4 年度に整備が完了した。

当圏域の地域包括ケアシステムの深化・推進、地域共生社会の実現に向け、その基盤の一つである当園の課題として、まず職員の不足が挙げられる。介護員（準職員）については、問い合わせや施設見学はあるものの、希望は非常勤職員であり、欠員の解消には至っていない。また、調理員については、応募の無い状態が数年続いており、今後も確保の難しい状況が想定される。そのため、圏域内の介護事業所の雇用状況や求職者に関する情報収集、柔軟な働き方の提案、各職種が担う業務内容の検証・改善、腰痛やメンタル不調の発生を予防し健康に働ける環境整備を行い、必要な職員の確保に向けて取り組むとともに、質の高いサービスの提供を行えるよう業務の効率化による生産性の向上を図っていく。また、現在、外注食を提供している食事サービスにおいては、施設調理での食事提供実施に向けた検討を行っていく。

居宅サービス事業の運営も、大きな課題となっている。地域密着型通所介護は、新規利用希望者が少なく、新規利用者を獲得したとしても、利用者の特別養護老人ホームへの入所や医療機関への入院、短期入所生活介護の利用等により利用率が目標に達しない現状があることから、開所日毎の定員を満たせるよう営業等を行い、利用率の向上を図っていく必要がある。ハード面においては、事業所設備のメンテナンス費用がかさんでいる現状があることから、園全体の課題として、課題解決に向けた検討を深めて行く。

こうした多くの課題を解決し、「のんびりゆったり過ごせる住まい。安心して笑顔で過ごせる暮らし」を合言葉に、入居者・利用者、職員を大切にする施設を目指していく。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	職員及び非常勤職員の確保
現状と課題	浜田圏域において介護職の人材確保は非常に厳しい状況であり、就職相談会への参加や介護実習等の積極的な受入れなど、職員確保に向け取り組んでいるが、準職員の定数が充足されたことがない。
取組の方向性	① 圏域の就職セミナー等人材確保に係るイベント情報を把握し、イベントに積極的に参加する。 ② 介護職員初任者研修の実習生を積極的に受け入れる。 ③ 施設実習や職場体験で来園された方を対象に情報発信を行い、繋がりを築き、新たな人材を発掘する。(変更)

実施施策	準職員等の退職後の再雇用
現状と課題	準職員で退職した後も継続して働くことができる職員については、準職員の確保が困難な状況の中、非常勤職員へ雇用形態を変更した上で継続雇用する必要がある。
取組の方向性	① 準職員を定年退職したあとも非常勤職員として継続して雇用できるようにするため、業務内容や勤務時間等の選択肢を増やすことにより、慣れた職員が長く働くことができる働き方を提供する。 ② 再雇用できない場合は、ユニット外活動の運営ボランティア等、引き続き偕生園に関わってもらえるような仕組みを作る。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	モチベーションの向上
現状と課題	コロナ禍の行動制限等による閉塞感の強まりから、職員のモチベーション低下がみられている。これまで3つのクラブ（スマイルクラブ、スキルアップクラブ、ハッピーライフクラブ）において、介護技術や入居者の生活の質の向上、職員間コミュニケーションの活性化等に向け取組みを行ってきたが、今後は記録やユニットケア、口腔ケア等の課題解決に向け、さらにクラブ活動を充実させていかなければならない。また、知識を平準化するための周知方法を検討する必要がある。
取組の方向性	① 目標や方向性を明確にした複数の専門部会を設置し、ユニットを超えた職員間で継続的に専門性を高める取組を進める。(変

	<p>更)</p> <p>② 専門部会員とユニット職員双方のモチベーションの向上が図れるよう、各部会での取り組みをユニットへフィードバックし実践する。(変更)</p>
--	---

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	働きやすい職場風土の構築
現状と課題	<p>全職員に実施した「第4期中期経営計画ふりかえりアンケート」において、「仕事のやりがい・仕事の楽しさについて」の設問について後ろ向きな回答や未記入が多く、魅力ある職場となっていない。</p> <p>また、ユニットは、5人という少人数で業務に当たっており、人間関係が働きやすさだけでなく、やりがいにも直結するため、良好な人間関係の構築と維持を最優先に取り組む必要がある。</p>
取組の方向性	<p>① 管理職やリーダーが、偕生園行動指針の「あいさつ」「笑顔」「学び」のキーワードを意識した行動を心掛けるとともに、管理職が定期的な個別面談を行いユニットのメンバーが良好な人間関係を構築できるよう環境を整える。(変更)</p> <p>② 職員の親睦会等とおして良好な人間関係を構築できるよう、多様なイベント等を実施する。(変更)</p>

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	業務の効率化
現状と課題	<p>現在、眠り SCAN を 20 台使用し、夜間の訪室回数の軽減や入居者の転倒事故防止に活用しているが、現在の台数では、夜間の見守り等負担軽減が十分に図れていない現状がある。</p> <p>また、現在の業務系システムは、動作が遅いことや 24 時間シートが作成しづらい、使い切れていない機能が多い等課題が多いため、これらを整理し、改善に向けた提案を積極的に行う必要がある。</p>
取組の方向性	<p>① 各ユニットに偏りなく眠り SCAN を配備するため、20 台を段階的に導入し、夜間の適切なタイミングでの排泄ケアや訪室回数の削減により、夜間時の業務負担の軽減を図る。また、蓄積されたデータから、入居者の生活リズムや体調変化を把握し、きめ細やかな介護の実践に繋げる。(変更)</p> <p>② 情報システムの課題整理及び記録のあり方について、園内で協議する場を設ける。</p>

実施施策	腰痛予防対策の推進
現状と課題	「持ち上げない介護」「力任せでない介護」は一定程度浸透してきたが、移乗介助において、入居者の潜在能力、家族の強い意向などから入居者を力に任せて持ち上げる介護を行わざるを得ないケースに対して、有効な福祉用具が不足している。また、介護技術についても継続的なスキルアップが必要であるが、腰痛に関するアンケート結果から、介護員の腰痛予防意識が低いことが浮き彫りとなり、日常生活における健康づくりや腰痛予防意識を高めることを目的とした情報を発信し、個々の実践を促す必要がある。
取組の方向性	<p>① 健康づくりやセルフケアの大切さを浸透させる為、安全衛生委員会で腰痛予防についての情報を発信し、アプローチする。(変更)</p> <p>② 中腰姿勢等での介助を減らすため、介助方法に見合った福祉用具の導入を検討するとともに、専門部会で定期的に介助方法の見直しを行う。</p> <p>③ 介護技術のスキルアップのため、外部研修への派遣や園内研修を実施する。</p>

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	食事サービスの質の向上
現状と課題	<p>調理員の不足により直営方式での食事提供が困難な状態であり、外注食を取り入れた食事提供体制となっている。外注食は味にムラが少なく、品質が安定しているが色合いや食感が損なわれていたり、献立や味付けが既に決まっている為、入居者の意見を反映できない部分がある。また、調理員が本来の調理業務に従事できない環境にあり、調理技術を維持することが難しくなっている。</p> <p>調理職員の技術を維持向上させ、より良い食事を提供していくため、現行の食事提供体制について改善に向け検討する必要がある。</p>
取組の方向性	① 外注食と、施設調理の一部試行を併用しながら食事提供体制を検討する。(変更)

実施施策	専門性を発揮したケアの実践
現状と課題	令和2年度より職員の専門性を高めることを目的に、新たに3つの専門部会を立ち上げ、外部講師など招き学びを深めていく方向性は浸透しつつあるが、更なる専門性を発揮するために認知症入居者への対応、看取り介護、介護技術等多岐に渡る専門性の向上に努め

	ていく必要がある。また、身体機能や認知機能が低下した入居者が暮らしやすい住環境としての設えといった視点を持ち続ける必要がある。
取組の方向性	① 職員個々の専門性を高めるため、効果的な専門部会を設置する。 ② ユニットリーダーを中心に、介護員が主体的に入居者の状態像に応じた住環境を整える。(変更)

実施施策	ユニット外活動の充実
現状と課題	寄合処でのユニット外活動については、月に1回お花、習字、唄を外部ボランティアの協力を得て実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症予防の為、施設職員以外の園内への立ち入りを禁止したことから実施ができなかった。自立度や活動性が高い入居者がそれぞれのユニットで時間を持て余し、居室に籠りがちになり入居者の機能低下が懸念される。入居者の機能や社会性を維持するため、ユニット内ではできない趣味活動や他者との交流ができる施設内デイサービスのような場の整備が必要である。
取組の方向性	① 施設内デイサービスを計画実施できるよう仕組みを構築し、外部ボランティアの協力を得て生け花、習字、カラオケ等のユニット外活動を再開する。(変更) ② 職員の趣味や特技を活かしながら、職員の参加を促す。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	権利擁護意識の浸透
現状と課題	入居者に対する不適切な言葉づかいや不適切なケアは、顕在化しているものは氷山の一角である可能性もある。個室というある意味密室において、弱い立場にある入居者にどのように接するべきか、自らどのように振る舞うべきか、園全体で考え続ける必要がある。
取組の方向性	① 職員が自らの行動、言動を振り返るためのチェックシートを作成・実施し、権利擁護意識の向上を図る。(変更) ② 権利擁護意識を浸透するため、継続して外部講師を招き、職員自身の振る舞いを振り返る。(変更)

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域における公益的な取組の継続
現状と課題	新型コロナウイルス感染症予防の為、「寄り合い喫茶かいせい」や福祉後援会は実施できなかった。「寄りあい喫茶かいせい」は、地域

	のサロンのひとつとしてフレイル予防に寄与していることから継続する必要があり、福祉講演会についても地域資源として「偕生園」を認知してもらい、浜田市における園の存在感を高めるためにも継続的に開催する必要がある。
取組の方向性	① 「寄りあい喫茶かいせい」の実施、福祉講演会(福祉フェス)の開催により、住民に愛される地域資源としての偕生園を確立する。 (変更)

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	介護老人福祉施設事業の収入確保
現状と課題	介護老人福祉施設は、偕生園の安定した収入を支える事業であるが、新規入居までに期間を要しており、速やかな入居に繋がっていないこと、要介護度の高い入居申込者が少ないことから、収入の維持・向上が難しい現状がある。
取組の方向性	① 退所に伴う空床期間の短縮に向けた取組を継続する。 ② 医療依存度の高い申込み者の受け入れについて検討する。(変更)

実施施策	居宅サービス事業の方向性の検討
現状と課題	通所介護事業所については、目標利用率の達成ができない状況が続いており、事業戦略の見直しが必要である。 居宅介護支援事業所については、今後の利用者や他事業者の動向を踏まえながら居宅介護支援に従事したいと希望する有資格者の受け皿として、居宅介護支援事業所を継続、維持する必要がある。
取組の方向性	① 通所介護事業所は、他圏域事業所の情報収集を行い、他事業所と競合しない特色ある事業所作りを多職種で検討し、利用率の維持向上に繋げる。 ② 居宅介護支援事業所は、介護保険制度の要となる事業であると共に、次世代を担う介護支援専門員の育成を念頭に置き、特定事業所加算を算定できるような人員配置も含め、今後の事業展開について検討し、方向性を決定する。(変更)

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	施設内の居住環境の改善
現状と課題	冬季は低湿度であり、適応能力のある加湿器を使用しても湿度は

	30～40%しか達しないことから、早急に居住環境を改善する必要がある。
取組の方向性	① 湿度が上がらない居室については加湿機能付きエアコン設置も含め今後の状況をみながら検討する。(変更)

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	チームケアの推進
現状と課題	チームケアを行う上で、承認力を高め職員間の信頼関係を構築しチーム力向上に努めているが、報告・連絡・相談が不十分であり、様々な関係者とのコミュニケーションがまだまだ不足しているという声が挙がっている。
取組の方向性	① 組織内の連携を強化する為、報告・連絡・相談の重要性和効率的なやり方を学ぶ機会を設け、チーム力を向上する。(変更)

3 目標利用率

事業名	定員	実績		見込	目標値	
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
介護老人福祉施設	70名	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
短期入所生活介護	10名	90.0%	90.0%	90.0%	91.0%	91.0%
地域密着通所介護	18名	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
居宅介護支援	-	51件	57件	63件	63件	63件
介護予防支援業務受託件数	-	8件	8件	8件	8件	8件